

# ゆりかご園だより

2期(6~9月)のねらいからだづくり活動を通して子ども関係の質を高めよう

2020・7・1



新型コロナウイルス感染症の拡大が深刻な中、それまで当たりまえのように行っていた行事を中止・縮小してきました。早く収束し元の生活に戻ってほしいと切に願います。

「北海道における緊急事態措置」が解

除され、制限がありながらも北大構内や公園への遠足・散歩で摘んだヨモギを使っての団子づくりを楽しむことができ、子どもも職員も笑顔になりました。皆様のご理解とご協かに改めて感謝申し上げます。今後の行事がどうなるのか、不安はありますが楽しい経験を十分にさせてあげたいものです。

子どもたちの行事の実施も限られている状況ですが大人が交流する機会も次々と中止になっています。5月は父母の会主催の新入園家庭歓迎会、6月はバザー、7月は夏まつりを予定していましたが、密集・密接を避けられないイベントのため、中止せざるを得ませんでした。新入園家庭の皆さんに「ゆりかご」がどんな保育園なのか、知っていただく機会に叶ったはずですし、在園家庭の子どもたちも楽しみにしていたイベントだけに残念です。

また、学ぶ木総会も同様です。保育園の保護者や職員、研究者たちが全国から集う合研、今年は福島で開催される予定でしたが中止になりました。札幌で開催予定の全国給食セミナーも残念ながら中止になりました。

バザーについて少し紹介します。1973年に開園した「ゆりかご」は、多くの方の熱意で認可保育園として誕生しました。その建設資金は乏しく、多額の借金で建った保育園です。“子どもたちのために”という共通の思いをもった大人たちが年に2回のバザーで18年かけて返済したのです。1回の利益が50万円、年、100万円という額でした。大人が交流でき、在園児や卒園家庭、地域の方も楽しみにしてくれているイベントです。借金を完済した後も議論を重ねた結果、目標金額を下げ、年に一度に回数を減らし続けることにしました。

夏まつりは、全国合研に父母と職員が「ゆりかご」の代表として参加するための費用を捻出するために、行ってきました。夏まつりもバザー同様、多くの方々の笑顔が見られる総会となっていました。「ゆりかご」が大切にしてきた大人同士の共感関係、行事を通してのみならず、子どもの育ちを共に見守っている関係づくりを、皆様の知恵をお借りしながら模索したいと思います。

